



発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 第65回品質月間のご案内
- 2-私の提言 ソフトウェアシステムに対する品質ソリューションの推移と対応
- 2-ルポルターージュ 第442回事業所見学会ルポ
- 3-ルポルターージュ 第141回クオリティークルボ
- 3-ルポルターージュ JSQC規格「日常管理の指針」講習会ルポ
- 4-総会告知 / 行事案内 / 2024年5月・7月の入会者紹介 / 会費請求 / 論文募集

## 第65回品質月間のご案内

品質月間委員会 事務局 福田 直樹

品質管理活動が企業にとって欠くべからざる取り組みであるのは、品質管理学会員の皆様には、いまさら言うまでもないことであるかと思えます。しかし、重要な取り組みであっても長く継続しているといつの間にかマンネリ化したり、停滞したりしてしまうことがあるのもまた事実です。

加えて、特に近年はcovid-19の影響で、人が集まることに制約がありましたので、改善活動の停滞に苦勞された企業の方も多いのではないのでしょうか。一度低調になってしまうと、元の活気を取り戻すのはなかなか難しいものです。停滞を打破するには、活動の体制を見直したり、また社員の意識高揚を図ったりといった方策が必要になります。毎年11月に実施される「品質月間」はそのまたとない機会となります。「品質月間」は1960年から実施されており、今年で第65回を迎えます。毎年の品質月間の中では、各社さまざまな取り組みを実施され、品質管理活動の活性化を図っておられます。今年も11月から品質月間が始まります。月間に先立ち、今一度、品質月間とはどのようなものか、を振り返ってみてはいかがでしょうか。

品質月間委員会では、年ごとに注目される事柄を取り上げて月間テーマとして公表しています。今年は先にあげたような停滞の打破に加えて、

品質不祥事のニュースも聞こえてくる中で、「原点回帰」を大きなキーワードとしてテーマを設定いたしました。

### ●第65回品質月間●

原点回帰！品質と信頼で築く豊かな社会  
 ・ウェブサイト：<http://q-month.jp/>



### <品質月間の取り組み例>

- ・品質標語や品質川柳への応募による参画意識の醸成
- 品質月間胸章（バッジ）の着用
- ・ポスターやのぼり、標語などの掲示による意識づけ



### 品質月間ポスター

- ・月間テキストの購読や特別講演会の聴講による知見の獲得
- 月間テキスト一覧

No.	タイトル
471	全社で取り組む品質コンプライアンス
472	サービスエクセレンスへのアプローチ：新しいマインドセットの人づくりと価値づくり
473	管理職のための「品質意識」のマネジメント
474	カイゼンにおけるナレッジマネジメントと生成AI活用
475	ものづくり企業のレジリエンス—生産管理から事業継続マネジメントまで
476	AIリスクアセスメント ガイドブック
477	第10回QCサークル活動（小集団改善活動）の全国実態調査

※月間テキストのラインナップにも品質不正防止やAI、事業継続マネジメントなど注目キーワードが反映されています。

- ・各種大会への参加による改善成果の発表と達成感の獲得
- 標準化と品質管理全国大会2024 (10/7)
- クオリティフォーラム2024 (10/16~17)
- 第54回全日本選抜QCサークル大会 (11/15)
- ・各社独自の取り組み例：
- 品質関係で獲得した表彰状やメダルなどの展示コーナー設置
- 自社から応募・入選した標語や川柳の掲示
- 品質関連講座の開催
- 品質月間開始にあたっての社長訓話
- 社内報、社内ポータルサイトへの記事掲載
- 自社スローガンの掲示

## ● 私の提言 ●

ソフトウェアシステムに対する  
品質ソリューションの推移と対応

(株)ベリサーブ 東 弘之



当社は、日本のメーカーやソフトウェアベンダーが作るプロダクトやサービスを対象に、ソフトウェア品質の向上を支援する会社です。私は2001年の会社設立時から在籍しており、ソフトウェア検証をはじめとするソフトウェア品質支援活動を一筋に従事してきました。これまで、PCアプリ、家庭用ゲーム機ソフト、黒物家電、スマートデバイス、エンタープライズシステム、モビリティなど、さまざまなプロダクトやシステムに対するソフトウェア品質ソリューションに携わってきました。

入社当時と比べ、現在のソフトウェアはより膨大に、複雑に、重要になってきており、ソフトウェアの価値は飛躍的に向上しています。併せて当社のソリューションも過去と比べて大きく変化しました。20年前は①製品そのものの品質を測る「開発プロダクト品質」ソリューションの提供が中心でしたが、近年では②ソリューション範囲が開発上流側にシフトして、要求文書や設計文書、それらのトレーサビリティに関するソリューションが増加しています。また、③開発プロセスの分析および可視化、改善、標準化を行う「開発プロセス品質」ソリューションや、④開発プロジェクトを円滑に進めるためのプロジェクトマネジメントを支援する「開発プロジェクト品質」ソリューションも増えてきています。これ

ら①から④の品質ソリューションを組み合わせる提供する場合もあります。また、商品のニーズ志向化による開発・リリースサイクルの短縮化やシミュレーションを活用した開発上流での品質確認など、ソリューションに必要な技術も変化してきています。ソリューション品質を保つための手法開発や技術者育成など、さまざまな取組みが必要です。

開発のプロセス品質、プロジェクト品質およびプロダクト品質の関係性を示し、最適なソリューションの組み合わせを行うことは目指すべきところではありますが、難しく苦戦しています。各種課題の解決に向け、引き続きさまざまな研究文献や報告を見聞きすること、有識者と良い議論を繰り返すことこそが、アドバンテージにつながるソリューションを生み出す原動力になると信じています。知識の吸収や気付きの誘発を行っていくためにも貴学会を最大限に活用し、当社のソリューションが良い製品やサービス作りに貢献できれば、これ以上のことはありません。

第442回  
事業所見学会  
ルポ株式会社オカムラ  
富士事業所

2024年3月18日(月)静岡県の株式会社オカムラ富士事業所へ総勢15名で訪問いたしました。美しい富士山に出迎えられ、概要説明を受けた後、F-Cube（富士3次元）オフィス、LUX物流システム、工場、ビオトープを見学いたしました。F-Cubeは4階建てのフリーアドレスとなっており、設計室内も見学させていただきました。かつ結構自由に撮影が許可されるという、大胆で素晴らしい見学に、驚きと感動の連続の見学でした。

フロア全体が可視化でき、部門間の壁がなく円滑なコミュニケーションを実現されていました。ランダムなレイアウトで偶発的なコミュニケーションを誘発するフリーアドレスにより、他部署の人達との衆知が集められるようになっておりました。まさにCubeを感じる、立体的なレイアウトとなっておりカフェラウンジからは美しい富士山を眺めながらの立体会議が出来

る。という羨ましいレイアウトとなっております。

一人用、二人用テレキューブは、WEB会議に非常に有効であり、会社だけでなく、個人としても欲しくなるものでした。LUX（オカムラ 物流システムショールーム）では物流の滑らかでかつ迅速な流れに驚かされました。

現場見学では、パーティション工程を主に見学させていただきましたが、自動化が進んでおり、ヒューマンエラーが防止されているな！と驚きました。

事業所内にビオトープがあり、自然と共有されていることに感心いたしました。

見学会全体で感じたのは、オカムラ様の提案型仕事のやり方に関心いたしました。質疑応答で、対面とWebでのハイブリッドでの良い方法をお伺いしましたところ、即、大名古屋ビルヂングの例を提案していただきました。

最後に株式会社オカムラ 富士事業所の皆様方には、ご多用の中にも関わらず、F-Cube、工場見学や説明などをご丁寧に対応していただきました事を御礼申し上げます。 皆川 一二（岐阜大学）

## 第141回 クオリティーク ルポ

### 品質不正の未然防止

2024年5月17日、プロセスマネジメントテクノの永原賢造氏により「品質不正の未然防止」と題し講演いただきました。物づくりの世界で「品質不正」が一向に減らないことは、皆が憂うところです。

本トークでは最初に小グループで関係事項について各自意見を述べあい、課題を明確にし本編に望みます。

講演ではまず「品質保証」「品質不正」の定義を確認。品質不正は違反・隠蔽・改ざん・捏造など意図的領域での、品質保証の観点から容認できない事項が対象（厳密な文言はJSQCの定義を参照下さい）。

次に事例から共通する特徴、発生要因について。要因は数々あるが、「日常管理の脆弱性」「監査の限界」「組織・風土（社内だけの価値観）」を指摘。発生時にはリーダーシップがKeyとなること、組織風土・組織文化は大切だが不正の温床ともなり得る、と。

対応を考える点では、不正発生企業でリスクマネジメントをやっていないところはなかった事実、また、対応策としてリスクマネジメントを挙げているという事実がある。これは、過去のリスクの洗い出しと対応プロセスの整備が貧弱だったことによる。リスクマネジメントをどうプロセスに落とし込むかがポイントで、リスク予防の日常管理が重要。監査の多重実施ではなく、日常管理の質の向上が重要で上司が大きな役割を担う。風土醸成、即ち、誠実な人づくりは時間をかけて進めるしかないが極めて重要なポイント、と力説。

私も改めてリスクマネジメントが有効に働くのではと認識しました。発生時の対処法を予め責任ある人なり、組織で決めておくことで、当事者等の異常な状況での迷い・忖度・恐れを軽減し、「品質を守る」方向につながっていくのではないかと感じました。

尚、ここに報告したことは講演のほんの一部です。詳細を確認したい方は、今回お話いただいた永原氏の近著「JSQC選書35 品質不正の未然防止」を参照されてはいかがでしょうか。

蟹江 敏広（元・株MORESCO）

## JSQC規格 講習会 ルポ

### 「日常管理の指針」 —日常管理の本質を学ぶ—

「日常管理の指針—日常管理の本質を学ぶ—」の講習会が2024年7月11日(木)午後1時30分からオンラインで開催され、23名が参加した。

講師の古谷健夫氏はトヨタ自動車TQM推進部長等を歴任され、また日常管理指針の作成メンバーであることから、ご自身の豊富なご経験も交えながらわかりやすくご説明いただいた。

日常管理は日常業務をより効果的・効率的に進めるための活動で、SDCA（標準化→実施→チェック→処置）サイクルに基づく自主管理活動である。標準化の定義とその「4大便益」の解説に続き、「人間はミスをする」ということを前提に「守れないときにどうするか？」も含めて取り組む必要があること、標準を維持するためには管理項目と管理水準を定め、それらに基づく異常の検出と対応を通じて不具合の発生を防ぐことなどについて解説があった。

また、各部門においては自らの役割と使命に求められる基準に適合するアウトプットを出せるようにプロセスを標準化する取り組みが必要であり、経営資源を預かる上位管理者は自分の目で現場見ること、そして現場の管理者の悩みの相談に乗り、第一線の従業員を激励することが重要な役割であることなどについて講師の経験談を交えて具体的なご説明があった。

さらに、日常管理の活動においては問題解決が重要であることから、講師ご自身による高校生向け問題解決教科書の執筆、聖路加国際大学看護学部と連携したキリバス共和国での医療改善プロジェクトなどの興味深い事例が紹介された。

設計など標準化が難しい部門では、あるがままのプロセスを明確化する「表準化（おもてひょうじゅんか）」から取り組むというアプローチは、私のフィールドである事務などのオフィス業務にとっても大変有益と感じた。また、「デジタル化に伴って異常の発生が見えにくくなっている面があるので要注意」とのご指摘は、急速に進むDXの流れの中での新たな課題と感じた。

宮崎 敬（株オフィスソリューション）

# 第54回通常総会

日本品質管理学会第54回通常総会を右記のとおり開催いたします。

日 時：2024年11月9日(土) 10:00~11:00

場 所：東京理科大学 野田キャンパス

## 行事案内

### ●第136回研究発表会（関西）

日 時：2024年9月20日(金)10:00~16:15

会 場：関西大学 千里山キャンパス

プログラム：

特別講演 マネジメントモデルによる経営学入門—企業事例に学ぶ現代マネジメントの革新—

今野 勤 氏（神戸学院大学）

詳細・申込：<https://jsqc.org/136technical/>

### ●第54回年次大会（本部）発表募集

日 時：2024年11月9日(土)

会 場：東京理科大学 野田キャンパス

(1)申込期限

発表申込締切：9月23日(月)

予稿原稿締切：10月17日(木)必着

参加申込締切：10月30日(水)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

[https://jsqc.org/54annual\\_cfp/](https://jsqc.org/54annual_cfp/)

### ●第11回科学技術教育フォーラム

テーマ：科学技術立国を支える問題解決教育—子供たちの未来を拓く学校創り—

日 時：2024年10月5日(土)13:00~18:10

会 場：統計数理研究所大会議室およびオンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：[https://jsqc.org/11tqe\\_f/](https://jsqc.org/11tqe_f/)

### ●第143回クオリティトーク（東日本）

テーマ：サービスエクセレンス規格をど

う使うか～マインドセット変革と現状分析（危機感の醸成・萌芽的ビジネス活動の特定）～

ゲスト：水流 聡子 氏（東京大学）

日 時：2024年10月22日(火)18:00~20:30

会 場：オンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：<https://jsqc.org/143qtalk/>

### 事務局

JSQCホームページ：<https://jsqc.org/>

本 部：166-0003

東京都杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟東高円寺ビル内

E-mail：[jimukyoku@jsqc.org](mailto:jimukyoku@jsqc.org)

TEL：03-5378-1506

FAX：03-5378-1507

中部支部：〒460-0008

名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会名古屋支部内

TEL：050-1742-6188

FAX：050-3535-8675

E-mail：[nagoya51@jsa.or.jp](mailto:nagoya51@jsa.or.jp)

関西支部：〒530-0003

大阪市北区堂島2-4-27

JRE堂島タワー11階

日本科学技術連盟内大阪事務所内

TEL：06-6341-4627

FAX：06-6341-4615

E-mail：[kansai@jsqc.org](mailto:kansai@jsqc.org)

### 第54年度会費請求のお知らせ

第54年度（2024年10月1日～2025年9月30日）会費請求書を郵送いたします。

ゆうちょ銀行自動引き落としを利用されている方には請求書を送付いたしていません。

10月25日に引き落としいたしますので、ゆうちょ銀行口座の残高をご確認ください。

### 「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

## 2024年5月の入会者紹介

2024年5月22日の理事会において、下記の通り正会員8名、賛助会員1社10口の入会が承認されました。

（正会員8名）○浅利 珠美（ミットヨ）○宮川 雄気（伊勢化学工業）○岩本規暁（愛知製鋼）○三ツ井 誠（浜銀総合研究所）○沼野 良典（三菱電機）○木村 健太郎（タキイ種苗）○鈴木 浩一（ISO審査員）○今村 凌大（デンソー）

（賛助会員1社1口）

○ダイハツディーゼル

## 2024年7月の入会者紹介

2024年7月22日の理事会において、下記の通り正会員30名、準会員2名、

職域会員2名、賛助会員2社2口の入会が承認されました。

（正会員30名）○水谷 吉宏（ダイフク）○中村 均・山本 芳史・藤田 大輔（三菱電機）○瀧川 将・大野 宏之（京セラ）○成田 満明（IHキヤスティングス）○平井 雅大（デンソーテクノ）○雲類鷲 雄一（ロシュ・ダイアグノスティックス）○原口 秀一（ダイハツ工業）○松本 有加（良品計画）○西川 純平（ワールドインテック）○紀国 亮（麒麟ホールディングス）○嶋崎 大地（富士カプセル）○松田 浩（ジャトコ）○吉永 啓佑（日機装）○床波 大貴（KPMGコンサルティング）○西村 太一（アールシーロゴ）○加藤 翔太（旭化成）○内藤 貴彦（トヨタ自動車）○小島 真昭（アドベンチスト会）○藤田 成裕（長崎原爆病院）○古屋 裕美（サ

ラヤ）○松浦 秀樹（トヨタ紡織）○阿部 賢一郎（ダイヤモンドエレクトリックホールディングス）○永島 健（クボタ）○近藤 志耶（不二越）○加藤 護（良川サイジング）○石川 琢誠（NTTコムウェア）○菊池 元太（デンソー）

（準会員2名）○小畑 輝大（名古屋工業大学）○松本 瑞樹（静岡大学）

（職域会員2名）○濱瀬 貴幸・濱田 和樹（大阪ガスケミカル）

（賛助会員2社2口）

○日東電工 ○統計質保証推進協会

名誉会員：24名 賛助職域会員：11名

正 会 員：1632名 賛助会員：162社234口

準 会 員：68名 公共会員：12口

職域会員：51名